

評価委員会議事録

第26回広島矯正管区教誨師研修会

1 日 時 平成27年6月25日(木) 16時45分から17時15分

2 場 所 アークホテル広島駅南

3 出席者

(1) 大会関係教誨師

広島県教誨師会会長(大会委員長) 山 根 眞 三
広島県教誨師会教誨師 28名

(2) 関係施設職員

広島刑務所分類教育部 教 育 統 括
広島刑務所分類教育部 教 育 主 任
広島刑務所分類教育部 矯 正 処 遇 官

(3) 外部関係者

広島矯正管区成人矯正第二課長 山 縣 一 光 氏
広島矯正管区成人矯正第二課専門職 歳 森 薫 夫 氏
広島矯正管区成人矯正第二課 事 務 官

4 議事内容(要旨)

(1) 研修テーマについて

ア 施設内から外へ、社会復帰をシームレスに行える状況を整えていくにあたり、被収容者本人の意思が特に結果を左右することになるので、その力を育むことが大切な要素である。この点から、今回の研修テーマは、タイムリーであった。

イ 世界で唯一の被爆国である日本の広島についてふさわしいテーマである。

ウ これからの少年法を見るときに大切なテーマである。

(2) 研修の成果について

ア 少年院法及び少年鑑別所法の改正点がよくわかった。

イ 自らの視野を広げることの必要性や講演という形での人への伝え方について研さんを積む必要性を強く認識させられた。

ウ 人生において思いを成し遂げるには様々な思いが込められていることを再認識した。

エ 講演では、平山画伯の生き様、生涯を通じて訴え続けた成果について、学ぶべき点があることを痛感した。

(3) 総括

本研修会は、出席者である教誨師の教誨活動に密接した研修内容であり、教誨師のニーズに合致した研修内容が選定されており、実践的教誨に近づくよう計算され企画できていた。

今後、教誨師が教誨活動を実施するにあたって、今回の研修会は、矯正の今を通じ、社会の幅広い声を聞き、専門家のメッセージを感じ取ることで、

有益な情報を知り得ることができ、被収容者に対しての再犯防止につながる教養を高め、教誨に活かすことができたものと実感している。

今後においても教誨師が研修に際し、一堂に会し、研修を受けることができれば、幅広く、奥深い内容の研修を受けることで教誨活動の実践に移すことが可能な教養を身に付けることができるとともに教誨師双方の情報交換の場が設けられることとなり、これらを考えれば、研修の存在に意義があり、継続して実施されることが必要であろうという意見があった。